

## (1) 検討経過

H29. 9. 7 第12回 予算・決算審査の在り方について、各会派等から協議項目を提出することに決した。

11. 2 第13回 各会派等から協議項目について説明がされ、今後検討していくことに決した。 ⇒ [参考]

12. 15 第15回 決算審査の前倒しについては、平成30年度に日程に組み入れることが困難なことから、最短で平成31年度から実施することに決した。

H30. 2. 15 第17回 審査形態について、従来どおり10人程度の決算特別委員会を設置するか、新たな枠組み<sup>※</sup>を設置するか、今後検討していくことに決した。

※ 正副議長及び監査委員を除く全議員で構成する決算特別委員会を設置し、常任委員会ごとに分科会を設置し、そこで審査、採決し、決算特別委員会（全体会）で分科会主査報告を行い、質疑・採決を行うもの

12. 7 第20回 決算認定議案を9月定例会に提出し、当該定例会で審査、認定している他市の審査状況の報告を事務局が行った。審査形態については、議会運営委員会の行政視察（1月末）後、その検証を踏まえて検討することに決した。

H31. 4. 23 第22回 任期中に答申を行うこと、月1回程度開催していくことが決定した。また、調査項目については、議会運営委員会行政視察の検証を踏まえて「決算審査の在り方」について調査していくことが適当と確認した。

[参考] 会派等の意見 (H29. 11. 2)

会派等	意見
新友会	<p>・予算審議について、現状の常任委員会での審議でよいが、定期的な予算執行等について（閉会中も含めて）審議することも必要ではないか。</p> <p>・<u>決算審査について、9月定例会の会期中の中で、決算審査が終了する審議日程を編成し、9月定例会の会期中に決算審査を完結することによって、次年度予算編成に決算審査の内容が反映できる。</u></p>
共産党	<p>・予算審査は現状どおり。</p> <p>・<u>決算審査は審査時間を多く確保するため、6月定例会で設置するなど、早めの審査開始をする。</u></p>
改革ネット	<p>・<u>決算審査の第一段階として、予算編成に確実に反映するため、決算特別委員会による審査の前倒し（可能な限り）、短期集中審査、臨時会による委員長報告の採択という方法を検討できないか。</u></p> <p>第二段階として、<u>予算審査と決算審査の総合的・一体的審査を可能とする方法を検討する。9月議会での議会人事という制約があるが、予算決算常任委員会（全体会）の設置、常任委員会を分科会と位置付け、詳細審査を行った上で、分科会委員長報告を全体会で総括質疑を行い、取りまとめを行う方法を検討できないか。</u></p>
公明党	<p>・<u>決算書類のできる時期が早まれば、9月定例会で決算特別委員会の報告ができる。この結果、来年度の予算に反映できる。</u></p> <p>現在の審査方法の検証（審査時期、時間、方法）</p> <p>予算審査の際、決算での指摘事項を確認しておく。</p>
西村議員	<p>・<u>新公会計制度で作成された財務諸表を活用し、予算審査や決算認定の議論に生かすことを目的にした財務書類検討委員会を設置する。</u></p>

○意見集約

決算審査を次年度予算に反映させたい。このため、早期に決算認定ができるよう、審査日程や審査形態などを見直す必要がある。